

## 【仕分け】の時代

### 新しい学術コミュニケーションの形を求めて あるいは学術出版は存在意義を示せるか

京都大学学術出版会 鈴木哲也

#### 1 本当に豊かになったのか？ 学術コミュニケーションと電子メディア ——学術雑誌電子化の20年

##### 1) オンラインジャーナルの光と影

Science 2008年6月18日号

“Survey Finds Citations Growing Narrower as Journals Move Online”

“Electronic Publication and the Narrowing of Science and Scholarship”

##### 2) 学術雑誌版元の寡占化と価格高騰

(中間的な価格の雑誌での比較 2000～2006 単位ポンド)

Sage 182 → 372

Blackwell 240 → 459

Taylor & Francis 218 → 414

Springer 253 → 463

Elsevier 569 → 859

Trends in Scholarly Journal Prices 2000-2006

学界・研究機関の反発 The Economist 2004 8. 5

##### 3) では、オープンアクセスは幸せか？

厚みのない「論文」の横行 国文学会のデータベース化の結果

#### 2 一層行き詰まる【既存パラダイム】

——学術コミュニケーションの変化と「出版の疲弊」

##### 1) 研究の観点から

・研究成果の量そのものの急増／研究成果の形の多様化

・にも拘わらず増え続ける、「出版」へのニーズ

→出版ニーズを利用した、低質のビジネス

・結果としての「出版の疲弊」

学術書のクオリティの低下

異様な「廉価化」と、異様な高価格化

→研究者の「学術書」ばなれ

1990年代のアメリカの大学出版部の

Chodorow, S (1999) The Once and Future monograph, in M. M. Case(ed.),  
The Specialized Scholarly Monograph in Crisis or How Can I Get  
Tenure If You Won't Publish My Book? Association Research Library.

2) 教育の観点から

- ・大学院重点化と、大学院教育の激変
- ・「情報の氾濫」「情報の質の低下」 教科書市場の問題点

3) 電子情報流通の観点から

「デジタル化の潮流に乗り遅れている大学出版部」

Ithaka, University Publishing in A Digital Age 2007. 7

3 原理的な問い直しと「仕分け」の必要

——学術コミュニケーションの再構築、あるいは出版が生き残るために

1) 「新しい学術コミュニケーション」の要件

- ・速報性と領域性／非速報性と汎領域性：双方を満たすメディアと質の使い分け
- ・国際性と 英文による発信は不可避 それだけでなく、日本語でも届けること
- ・教育の観点  
学術研究の深さ（歴史性・階層性）と、広さ（パラダイム指向的意味）の提示
- ・多様な技術・メディアの効果的利用

**商業セクターとしての観点**

- ・「学術書」の役割を長期的な視点で再考する必要
- ・具体的な挑戦内容（京大の場合）  
本格的な包括的概説書／英文書／新しいタイプの教科書／  
マルチメディアの駆使  
→学術コミュニケーションの創造による市場の創造

2) どう仕分けるか

- ・コンテンツの性格による仕分け／技術適合性による仕分け  
→全体としては「出版」による成果公開は制限されるべき
  - 包括的レビュー → 紙の本 あるいは 紙と電子の複合？
  - 実験・観察・採集プロトコル → 電子書籍？
  - リーディングス → 電子書籍？
  - 個別研究 → どうする？？？
- ・技術によって、公開が可能になるものも

4 電子学術出版の直近未来的と問題点

1) 「電子書籍元年」フィーバーの中で見えてきたこと

電子書籍の中心は「高校生に携帯で小説を読ませる」こと？  
共通フォーマット作りの考え方 実際の市場指定

おそらく、(当面の間) 電子学術書は一層周辺化される----

2) 電子学術出版の直近未来的な3つの形

- 既刊コンテンツの電子化, コースウェア化とライセンスビジネス
  - ・「新入生おススメの本」のバンドル化 大学生協等との共同
  - ・書籍横断的なコースウェア化

■ 新刊をどこから始めるか

適合的領域は?

認知科学, 臨床医学分野

フィールド科学分野のプロトコル的コンテンツ その他

■ 日本発の商業オンラインジャーナルは可能か?

3) 克服すべき問題

リッチコンテンツの開発力を持っていない業界構造

リッチコンテンツの配信システム

5 「学術情報リポジトリ」の経験から

■ 包括的で体系的な学術情報の提供の可能性

例えば 地域研究分野での試み

■ 出版ビジネスは破壊されるか創造されるか

包括的で体系的な学術情報の提供による, 「本」の価値の提示

直接的な立ち読み効果

疑念としてある, 「図書館という購入者」の減少

■ なにより, 出版と出版以外の出版以外のセクターとの共同の重要性